

Title	學校園之性質
Author(s)	和田, 干藏
Citation	青森県教育. 1923, 1923, p.47-49
Issue Date	1923
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10129/2189">http://hdl.handle.net/10129/2189</a>
Rights	
Text version	publ isher



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>



## 學校園之性質

和田 干藏

學校として校舎運動場等の必要なるが如く學校園をも必要とす、最初庭園の設置を法令にて定めたるは奥國（一八六九年我明治二年）にして、同國の一教育家は遊戲と手工の發達と共に此の必要を認むるに至りたるものなり、即ち遊戲にてなし得る秩序止しき運動の獎勵と手工にてなし得る智徳の養成とを合併して同時に行ふことを得る方法を考案せるものは即ち學校園なり。而して是によりて自然物の智識を得られ經驗上の智識を得られ又公共心を養成することを得て訓育的價值大なるものなり、學校園に自然物（動物植物礦物）中特に植物を選びたる理由は次の如し。

- 一、植物は種類に富めること。
  - 二、設置の如何に應じてその數を容易に増減し得ること。
  - 三、比較的多くの費用を要せざること。
  - 四、僅かの日月に於て種子より實を結ぶに至る迄の植物の一生に關して兒童に經驗せしめ得ること。
  - 五、植物あるがため或種類の動物が自然に其處に生活するに至り、茲に於て間接に動物を經驗せしめ得ること。
  - 六、礦物の如きは園の所々に岩石（石）を配置すればその地方にある礦物類は之を經驗せしめ得ること等。
- 以上の理由よりして學校園は自然研究に伴ひ盛となりたれども、都會と村落とによりて自ら學校園に區別なかるべからず、即ち都會に於ては土地を得ること容易ならざること、多くの費用を要すること及び教授上必要ある植物の種類に乏

しきこと等の理由にて、學校園は之を小規模にする外止むを得ざるものありと雖も、村落に於ては主としてその他の生産業と聯絡してその地方に於ける職業の豫備たらしむること肝要なり。

學校園は教授上の材料は之にて得べきは勿論教授を受けつゝある間に獨立生活の常備を與ふことを得るなり、即ち或場合に於ては農事試験場の代用をなし得るなり、現に米國にありては社會的實業的教育を必要としその目的を達せんには學校園を利用することに努めつゝあり。

學校園の教育的價値を述べれば次の如し。

- 一、天然植物に關して確實なる智識を得しむること。
- 二、一定の仕事を爲すことにより自ら働くことを樂むに至らしむること。
- 三、意志を強固にし自重心を發達するに至らしむること。
- 四、自己と他人との範圍を定め勞働するため他人の權利を重んずるに至らしむること。
- 五、凡ての種類の勞働に關して同情を表し得るに至らしむること。
- 六、閑居より生ずる不善を防ぎ得ること。

學校園の區別を示せば次の如し。

- 一、樹木園
- 二、果樹園
- 三、蔬菜園
- 四、草花園
- 五、植物園

六、試作園

七、苗圃園

八、採種園

草花園及び植物園にして植物を排列するには種々の方式あり、即ち藥草及び毒草と區別するが如く用方によりて配列し、或は工藝等の材料に配列するもその一方式にして之を部分配列法と云ふ、又普通の植物園の如く科學的分類に基きて配列するも亦一方式にして之を天然分科配列法と稱す、或は植物の性質上水中或は砂中ならざれば發育せざるものあり、かくの如きは植物の性質によりて場所を選択する必要あるものにして之を習性配列法と謂ふ、然らば實際に於ては如何なる配列をなすべきかは以上の中何れかの一つに決定することは困難なるが故に、必ず是等を適完折衷せざるべからず。(丁)